

# 家庭で出来る浸水対策

(土のう等による事前の備え)

令和4年9月

川崎市建設緑政局

## 〈目次〉

1	大雨に対する日頃の備え.....	2
	(1) 浸水リスクと避難行動の確認.....	2
	(2) 大雨への事前準備.....	2
2	土のうによる浸水対策.....	3
	(1) 土のうの作り方.....	3
	(2) 土のうの積み方.....	3
	(3) ブルーシート等の併用.....	4
	(4) 土のうの配布について.....	4
	(5) 土のうの再利用のお願い.....	5
3	水のうによる浸水対策.....	6
	(1) 水のうの作り方.....	6
	(2) 水のうの設置方法.....	6
4	集水ますの清掃と点検等のお願い.....	7
5	集水ますの上に物を置かないでください.....	7
6	土のうの処分について.....	8
7	問合せ先.....	9

## 1 大雨に対する日頃の備え

台風や梅雨などの大雨による浸水被害は、適切な事前準備を行うことで軽減できます。

### (1) 浸水リスクと避難行動の確認

浸水実績図、洪水ハザードマップや内水ハザードマップを活用して、ご自宅付近の状況や避難所などを事前に確認しておくことが大切です。

- ・浸水実績図

<https://www.city.kawasaki.jp/601/page/0000037242.html>

- ・洪水ハザードマップ

<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018174.html>

- ・内水ハザードマップ

<https://www.city.kawasaki.jp/800/page/0000125074.html>

また、事前にご自分の避難行動を確認するためのマイタイムラインを作成することも大切です。

- ・マイタイムライン

<https://www.city.kawasaki.jp/601/page/0000117993.html>

### (2) 大雨への事前準備

ご自宅付近の浸水リスクが確認出来たら、梅雨時や台風シーズンには気象予報をこまめに確認し、大雨等の予報が出たら早めに土のう等による浸水対策をしましょう。

なお、浸水対策を行う時は、ご近所やお住いの町内会等で協力し合い、対策を行うことが重要です。

## 2 土のうによる浸水対策

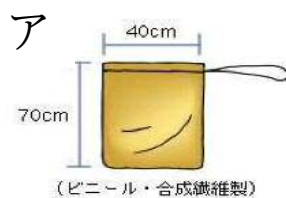
### (1) 土のうの作り方

ア 土のう袋と砂をホームセンター等で用意してください。

イ 土のう袋に砂（なければ土でも可）を詰めてください。

※あまりに多く砂を詰めると重くなりすぎて積む際に使い勝手が悪くなりますので、砂の量は土のう袋の6～7割(16kg程度)を目安にしてください。

ウ 土のう袋に砂を詰めたら、土のう袋の口を紐で結んで完成です。



土のう袋と砂を用意します。



スコップ2～3杯の砂を入れます。袋の約6～7割ほど入れます。



ひもを引く

袋のはしの紐を引いて口をしぼります。

### (2) 土のうの積み方

土のうを積む際には、1段積みでは十分な止水効果が得られないため、2段以上積むと効果的です。このとき、上下段のつなぎ目が交互になるように積むと、上段の土のうの重みにより隙間が埋まり止水効果が高まります。

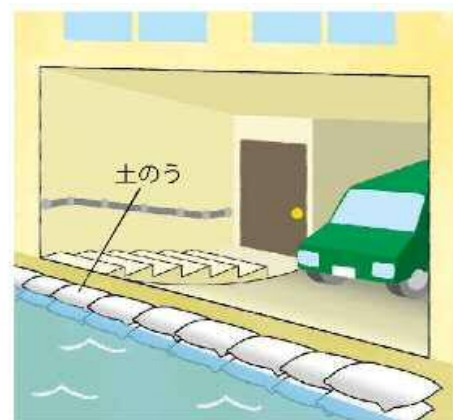


3段目  
2段目  
1段目

水の侵入側



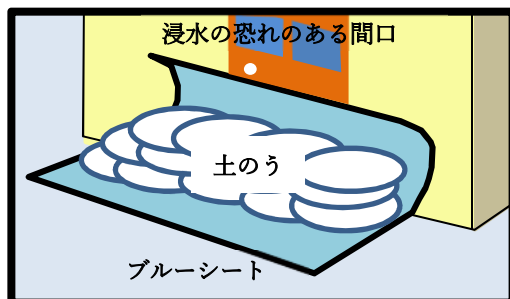
約1m



土のう

### (3) ブルーシート等の併用

土のうを積む際にブルーシート等（ご自分で用意したもの）を敷いて併用すると止水効果が高まります。



### (4) 土のうの配布について

各区役所道路公園センターにおいて、土のう（砂入り）の配布を行っております。ご自宅の積みたい箇所の間口延長と土のうの設置段数から必要な袋数をご確認いただき、お住いの区役所の道路公園センターにお問い合わせのうえ、時間に余裕をもって受け取りにきてください。また、受け取る際には、ご家庭で保管できるスペースを確保したうえでご連絡をお願いいたします。（土のうの配布の目安は、間口1mで1段（約9cm）積み上げる場合、3袋程度になります）

なお、お渡しできる土のうの数には限りがあり、状況によりご希望数をお渡しできない場合がありますのでご了承ください。

また、過去に浸水が確認された地域等の一部には、公共用地を利用して土のう置場（土のうステーション）を設置しております。詳細は、各区役所道路公園センターにお問い合わせください。

土のうは誰でも利用することができますが、浸水対策を目的に配布しておりますので、適切にご利用ください。



<土のう置場（土のうステーション）>

(5) 土のうの再利用のお願い

各区役所道路公園センターで配布する土のうに使われている砂は貴重な資源ですので、1度使ったら廃棄するのではなく、ご家庭のスペースで保管し、再利用していただきますようお願いいたします。

なお、土のう袋が劣化した場合には、新しい土のう袋を用意して詰め替えてご利用ください。新しい土のう袋は購入いただくか、各区役所道路公園センターで配布も行っておりますので、繰り返しの利用をお願いいたします。

### 3 水のうによる浸水対策

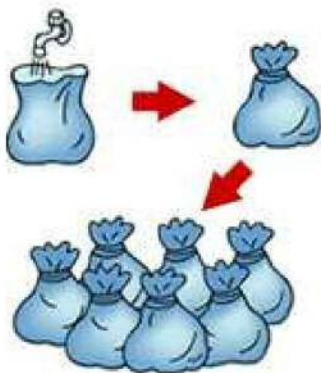
土のうの他に、ご家庭にあるポリ袋と水で簡単に作ることができる水のうも浸水対策に有効です。

#### (1) 水のうの作り方

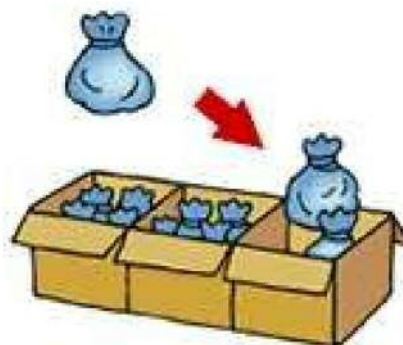
ポリ袋に半分程度水を入れ、中の空気を抜きながら口を固く結んで完成です。

#### (2) 水のうの設置方法

作った水のうを出入り口などに隙間なく並べてください。水のう単独だと積み重ねることができないので、防水高さを上げたい場合は段ボール箱などに入れると積み重ね可能になります。また、水位が高くなると水のう自体が浮いてしまうため、別途重りを入れるなどすると安心です。



家庭用の大きいポリ袋を2～3重にして半分程度水を入れる。設置するときは隙間なく並べる。



#### 4 集水ますの清掃と点検等のお願い

落ち葉などのゴミが集水ますの蓋に積もっているだけでも道路冠水や浸水の原因になりますので、台風前や梅雨時期には、集水ますの点検・清掃にご協力をお願いいたします。



#### 5 集水ますの上に物を置かないでください

雨水の流入を妨げる原因となりますので、側溝や集水ますの上に物を置かないでください。(道路に許可なく物を置くことは禁止されています)





## 6 土のうの処分について

配布した土のうは、貴重な資源のため、出来る限り再利用するようお願いいたします。なお、各区役所道路公園センターでは、土のう袋のみの配布も行っておりますので、砂を入れ替えて繰り返し利用してください。

再利用が出来ずどうしても処分が必要な場合は、いずれかの方法により処分出来ます。

・砂を小分けにし、普通ごみに混ぜてごみ集積所へ出してください。その際1回に出す量は、土のう袋の3分の1（5kg程度）までにしてください。

・土のうステーションを含めた各区役所道路公園センターが配布した土のうに限り、お住いの区役所の道路公園センターに持参いただければ受入れも可能です。持参いただく場合は、受入先へ事前にご連絡をお願いいたします。

※被害が広範囲にわたり復旧までに時間を要する大規模な災害が発生した場合は、受入れを中止することがありますので、最新の情報をご確認ください。

## 7 問合せ先

(1) 土のうの配布、処分（受入れ）について

**【各区役所道路公園センター問合せ先】**

- ・川崎区役所道路公園センター  
川崎区大島 1 - 2 5 - 1 0      TEL (2 4 4) 3 2 0 6
- ・幸区役所道路公園センター  
幸区下平間 3 5 7 - 3      TEL (5 4 4) 5 5 0 0
- ・中原区役所道路公園センター  
中原区下小田中 2 - 9 - 1      TEL (7 8 8) 2 3 1 1
- ・高津区役所道路公園センター  
高津区溝口 5 - 1 5 - 7      TEL (8 3 3) 1 2 2 1
- ・宮前区役所道路公園センター  
宮前区有馬 2 - 6 - 4      TEL (8 7 7) 1 6 6 1
- ・多摩区役所道路公園センター  
多摩区菅北浦 4 - 1 1 - 2 0      TEL (9 4 6) 0 0 4 4
- ・麻生区役所道路公園センター  
麻生区古沢 1 2 0      TEL (9 5 4) 0 5 0 5

(2) 普通ごみで出す際の土のう処分について

**【各生活環境事業所問合せ先】**

- ・川崎生活環境事業所  
川崎区塩浜 4 - 1 1 - 9      TEL (2 6 6) 5 7 4 7
- ・中原生活環境事業所  
中原区中丸子 1 5 5 - 1      TEL (4 1 1) 9 2 2 0
- ・宮前生活環境事業所  
宮前区宮崎 1 7 2      TEL (8 6 6) 9 1 3 1
- ・多摩生活環境事業所  
多摩区枳形 1 - 1 4 - 1      TEL (9 3 3) 4 1 1 1